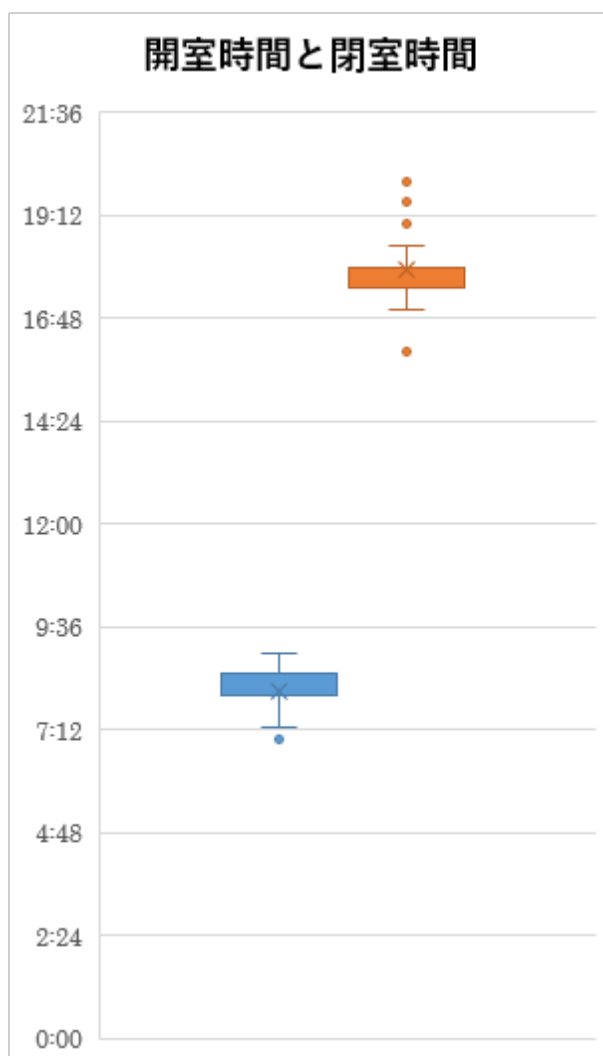


## 全国病児保育協議会提出資料 1

### ① 保育の内容・時間

病児保育事業を行っています。すなわち保育を必要とする小学生以下の病気の児童、幼児を預かり、保育を行っています。子どもの健全な育成を受ける権利は子どもが健康の時でも病気の時でも守らなければなりません。

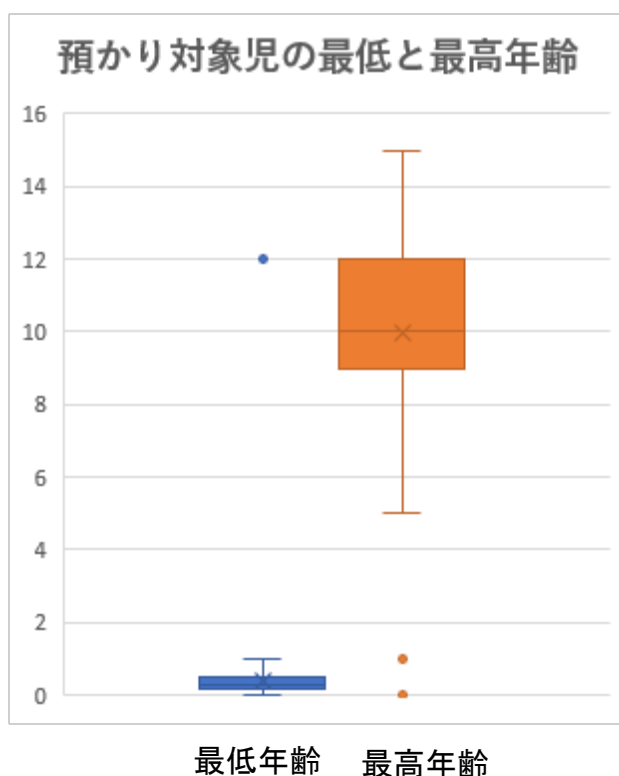
施設によっては預かれる対象は未就学児と限定されている地域もあります。保育時間は8時～18時が多いようです。



	開室時間	閉室時間
平均	8 : 06	17 : 56
標準偏差	0 : 23	0 : 29
最大値	9 : 00	20 : 00
最小値	7 : 00	16 : 00

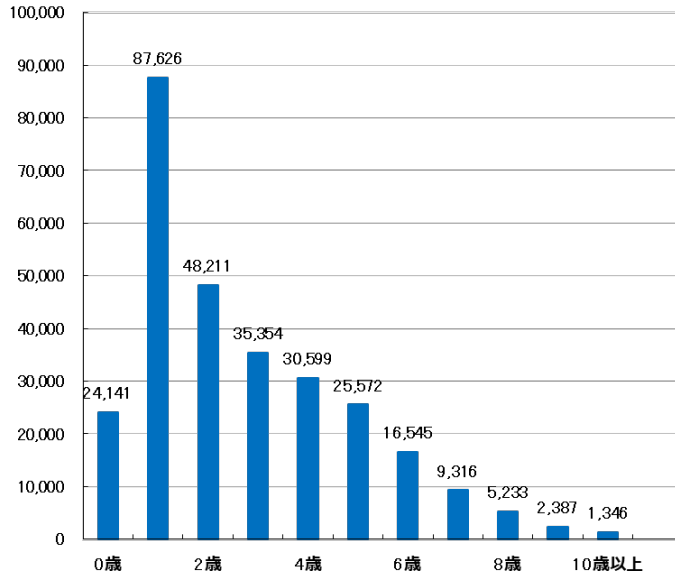
## ② 利用者

急性の感染症に罹患している病児は多いですが、そのほか骨折や火傷などの非感染性疾患、慢性疾患の病児も含まれます。利用する保護者の就労や病気の状態にかかわらず預かることは児童福祉法第6条3, 13項に規定されていますが、就労している保護者が多いようです。地域によっては保育園に預けられている乳幼児だけを対象としている地域もあります。最大年齢は75%の施設で、9歳から12歳の間で設定されています。ただし、低年齢児の場合病気の罹患率が高いため、低年齢の預かり児が多い傾向にあります。



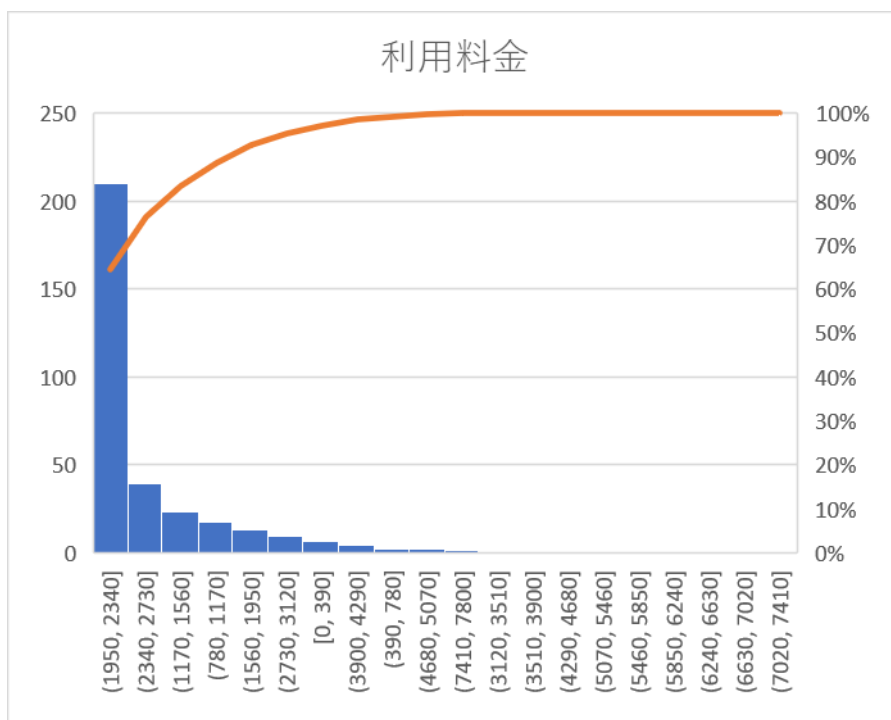
	最低年齢	最高年齢
平均	4 か月	10 歳
標準偏差	8 か月	2 歳 8 か月

年齢別 利用延べ人数（平成26年度実績調査）



### ③ 利用料

病児保育制度により国、自治体より給付金が支給されていますが、個人負担金として2,000円がほとんどであり、2,500円程度までの個人負担金を必要としていることが多い結果です。また病児保育施設設置地区以外からの利用者に対しては3,000円以上の負担金が発生していると考えられます。給付金を受けていない施設では、1時間あたり1,000円以上の個人負担金が発生していることもあります。



平均値            1994 円

標準偏差        652 円

便宜的に最大と最小を 20 等分にして 390 円単位のヒストグラムに表すと上記のとおり、1950～2340 円が最頻帯で、実際は 309 回答施設のうち、2000 円とする施設が 80.3%（248 施設）、1000 円とする施設が 16.5%（51 施設）で、0 円が 8 施設、無回答 14 施設でした。

#### ④ 無償化に関する意見

病児保育利用にあたっては個人負担金が発生しております。地域によって異なりますが、その負担金は 1 日当たり多くの施設で 2,000 円であり 2,500 円以内にとどまっております。また年間利用日数は 1 日が多く次いで、2 日間、3 日間の準になっています。また 10 日以上ご利用の病児は 7%程度です（参考資料 2）。しかしインフルエンザ等感染症によっては 2 日間、3 日間、4 日間の連続したご利用者が増加しております。参考資料として今シーズンのインフルエンザ流行時の連続したご利用者の割合を示しました（参考資料 3）。仮に 5 日間利用すれば 10,000 円から 12,500 円の利用額となり家庭によっては大きな負担です。また感染症では家族内で同時発生するときも多く、兄弟 2 名、3 名でのご利用も多くなります。その場合はさらに負担金は増額し 20,000 円から 3 人利用の場合は 37,500 円となりと予想されます。この金額は一般家庭では負担することは困難となります。

一方乳幼児の医療費は自治体によって変わりますが未就学児では無料、小学生でも自治体によって無料の地域も多いようです。今回幼児教育の無償化が推進され、保育園の利用についても無償化が推進されようとしています。医療費と保育園利用料が無償化する中であって、医療と保育の2つの制度を必要とする病児保育に負担金を求めることは国民に理解されないと考えます。同時に少子化問題解決への大きな障壁となることでしょう。病児保育の無償化をお願いします。

近年園内での感染症の流行を危惧するあまり医師の診断書により登園が許可されたにもかかわらず、施設長判断にて登園できず、病児保育を利用される方もいらっしゃいます。園での流行は園の努力によっても最小限に食い止めることが可能です。医学的に感染のリスクが低下して保育可能な園児を積極的に受け入れる制度の導入も立案する必要があります。その対策法の一つとして、登園禁止した園児に対して日数に応じた教育の無償化に払われる経費の出費を停止して、その経費を病児保育での無償化に関わる費用として補うことも必要かもしれません。

資料の出典：全国病児保育協議会平成28年度実態調査から

病児保育研究8号（平成29年6月発行）に掲載予定

参考資料2：弘前市における年間病児保育利用日数

参考資料3：インフルエンザ流行時の月毎病児保育室利用日数

## 病児・病後児保育 児童の利用回数

利用回数	H24年度		H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度 (H30. 1月末)	
	児童数	割合	児童数	割合	児童数	割合	児童数	割合	児童数	割合	児童数	割合
1回	147人	33.1%	144人	32.8%	140人	29.6%	157人	31.8%	226人	34.2%	219人	39.4%
2回	97人	21.8%	84人	19.1%	103人	21.8%	108人	21.9%	127人	19.2%	104人	18.7%
3回	50人	11.3%	58人	13.2%	68人	14.4%	64人	13.0%	71人	10.7%	55人	9.9%
4回	37人	8.3%	36人	8.2%	53人	11.2%	38人	7.7%	49人	7.4%	42人	7.6%
5回	22人	5.0%	32人	7.3%	30人	6.3%	34人	6.9%	56人	8.5%	31人	5.6%
6～10回	59人	13.3%	61人	13.9%	54人	11.4%	65人	13.2%	91人	13.8%	63人	11.3%
11～15回	19人	4.3%	17人	3.9%	20人	4.2%	13人	2.6%	28人	4.2%	32人	5.8%
16～20回	9人	2.0%	3人	0.7%	4人	0.8%	10人	2.0%	8人	1.2%	5人	0.9%
21～25回	2人	0.5%	0人	0.0%	1人	0.2%	3人	0.6%	3人	0.5%	3人	0.5%
26回			1人	0.2%					1人	0.2%		
27回			1人	0.2%								
28回			1人	0.2%			1人	0.2%				
29回			1人	0.2%			1人	0.2%				
30回												
31回												
32回	1人	0.2%							1人	0.2%		
33回	1人	0.2%										
37回											1人	0.2%
38回												
42回												
43回											1人	0.2%
49回												
利用児童数	444人		439人		473人		494人		661人		556人	
のべ利用児童数	1668人		1588人		1654人		1829人		2477人		2037人	
登録者	935人		904人		933人		949人		1237人		1121人	
登録利用率 (利用児童数 /登録者)	47.5%		48.6%		50.7%		52.1%		53.4%		49.6%	

インフルエンザ流行期における月間利用日数  
平成30年 1月～2月

利用日数	1月		2月		合計	
1日	59	46.8%	44	37.3%	103	42.2%
2日	26	20.6%	31	26.3%	57	23.4%
3日	23	18.3%	22	18.6%	45	18.4%
4日	11	8.7%	14	11.9%	25	10.2%
5日	6	4.8%	7	5.9%	13	5.3%
6日	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7日	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
8日	1	0.8%	0	0.0%	1	0.4%
	126		118		244	

うさぎのママ調べ